

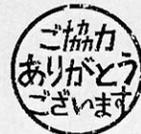
# よっ葉だより

2022年  
6月20日号  
No.702

◆新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金◆



栃木県 860  
群馬県 861  
茨城県 862



## 3年ぶりに田植えができました！一塩谷農業体験

和氣 勝英さん



5月28日(土)、前日の雨が上がってからと晴れたお天気のもと、栃木県塩谷町の和氣ふあーむで田植えをしました。組合員を募集しての農業体験は3年ぶりです。くららで「お馴染みの和氣ふあーむ会長の和氣勝英さんのご指導を受けながら、小さなお子さんから中学生、大人も裸足になって一株ずつ手植えしました。

育苗箱から外して3本ずつ苗を取り分けて、目印のついたロープに合わせて植えていきます。代かき後の田んぼは、温かくて気持ちがいいけれど、足はひざ近くまでずぶずぶ入ってなかなか抜けません。後ろ向きに移動するのでバランスを崩さないようにゆっくり慎重に。お子さんたちは、お家の人に支えてもらったり、田んぼと水路を行ったり来たりしながら、泥んこになって一生懸命植えていました。みんなで頑張ったので、1時間余りで植え終えることができました。和氣さんは、「あとの管理はお任せください！秋の稲刈りでお会いできるのを楽しみにしています」とおっしゃっていました。

よっ葉の農業体験は、よっ葉生協が大切にしてきた産直関係(作っている人、食べている人の顔が見えること)、地産地消(地元でつくられた農産物を地元で食べる)を実感する大切な場です。田んぼに入って同じ作業をする。そこで過ごす時間は、おひさま、土、水、生きものの力と農家さんの手助けで農産物ができると、作物も生産者も私たち組合員もみんな繋がっていることを実感させてくれました。真、すぐに植えられなかったですが、しっかり田んぼに根付いて、豊かな実りをもたらしてくれることと思います。



今後の農業体験は、随時よっ葉だよりでご案内していきます。

塩谷町では、田植え直後の5月31日に「自然と共生する農業づくり協議会」が設立されました。全国名水百選に認定されている尚仁沢湧水を有する自然あふれる塩谷町で、有機農業をはじめとした豊かな地域農業と自然環境を守る取り組みが始まります。



理事長 三輪

# よつ葉生活協同組合 40周年—前進する糧を求めて—④

## PB、プライベート商品の開発

よつ葉生協にはオリジナル商品といわれる食品がいくつかあり、今も増えています。一番初めに作ったのは味噌です。

積極的に作ったというより作らざるを得なかった状況がありました。1985年に首都圏事業連合（現在のパルシステム事業連合）に商品取り扱いのみの準会員として加入し、調味料などの供給を受けていたことは前にも触れましたが、パルシステム事業連合は関東全体の事業連合を目指していました。

よつ葉会は、2000年に組織統合への選択を迫られました。組織統合した場合によつ葉会に残るのは、組合員加入業務、配送業務と組合員活動でした。地産地消、地元密着型を進めてきましたので、農家、生産者は地元の方がほとんどです。

よつ葉会を支え、協力してくれた農家、生産者との縁を切ることになります。よつ葉会の生産者の規模が小さいので、パルシステムに商品を入れることはほぼできないことも分かり、今まで積み上げてきた信頼関係が壊されます。

不安定な事業が続く中、合理化することで利益増を確保できると言われても、誰のための生協なのか、理事一人ひとりが考え、首都圏事業連合からの脱会を決議しました。

業者協力会の皆さんは、よつ葉会が今まで培ってきた信頼関係を大事にしてくれたと、一層よい商品を作らねばと決意したと話してくれました。

期限付きで、しかも長くない期間で商品が入ってこないと判り、急いで味噌、醤油を開発する委員会を立ち上げ、どのような調味料が欲しいか検討に入りました。国産原材料で、昔ながらの製法で時間をかけて熟成させる味噌を作って欲しいと、製造業者の選定に入りました。

宮城県遠田郡美里町という田園風景が広がる創業以来160年余（その当時）の鎌田醤油が、希望に沿った、栃木県産大豆、瀬戸の粗塩、国産米の味噌を作ってくれることになり、委員会が何度も話し合い、製造所へ見学に行ったりしながら、2003年10月に供給をスタートさせることが出来ました。

続いて開発委員会は、醤油づくりを検討し、国内産原料100%（契約栽培大豆、国内産小麦、小名浜産海水塩、熟成期間1年半～2年）で作る、味噌、醤油ともアルコール、添加物なし、リユース瓶でオリジナル調味料が出来ました。

その後、組合員参画の継続で、だしつゆ、めんつゆ、ぼん酢が高いレベルで出来ました。味噌は、上三川町の日本の稲作を守る会の有機栽培大豆を使用した味噌も作られました。

PB商品の課題は、製造業者の原材料の確保、包材の印刷のロット数、販売する生協には一定の量を販売する実績と責任が求められます。

製造業者が大きいと求める販売実績も大きいため、よつ葉生協と一緒に開発製造できるのは、小規模業者になります。小規模

でもお互いの信頼関係と責任は、事業継続につながる大きいものが求められます。

マヨネーズ、千本松のミルクと塩のアイスクリーム、無茶々園のよつ葉のいよかんマーマレード、那須の千本松牛乳、よつ葉の餃子、熊倉さんの鶏肉を使った総菜。カレールウは、市販のルウにはりんごが入っていて、ネオニコチノイド系農薬使用が多いので、農薬などの化学物質過敏症の子どもがカレーは食べられないと一人の組合員に言われ、日本の稲作を守る会の有機栽培の小麦粉を使用し、果物、遺伝子組み換え作物を使用していないもので作ってもらいました。

課題は、使いやすい顆粒状にするために、パーム油を使っていることです。製造所の機械や、食料油を使った場合の包材や、溶けづらさを解決するには、いくつかのステップを踏む必要があります。課題として残しつつも食べられなかった子どもが食べられるようになったと返事が頂けたのは、ネオニコチノイド系農薬不使用の大きい成果です。

2000年に、商品が入らなくても独自の道を進むと決めたよつ葉会が、組織として独自の道を進み、調味料も質を下げず独自のものを作ることを決めたことは、よつ葉会が一步進むためによつ葉らしい決断をしたと思います。この決断が第2の分岐点だったと思います。

毎日使う調味料が遺伝子組み換え原料を使わず、熟成期間や、添加物不使用を考えた昔ながらの製法と味にこだわり、譲れないものとしての位置を築いた原点が味噌作りにあったと思います。

昔から、米、味噌、醤油と言われてきました。これがあると生きていけると言われるほど、日本食のベースであり、基本でした。

ところが残念なことに、味噌も醤油も原料の大豆を輸入に頼り切っています。しかも遺伝子組み換え大豆です。古来からの発酵食品が変わりつつあります。国の大豆についていた補助金もなくなることで、作付けがわずかになっています。

大豆は栽培、収穫、その後の作業が大変だと農家さんが言います。それでも作り続けている農家さんに感謝し、来年作付けが継続できるような適正価格で仕入れ、販売するのも生協の役目です。組合員のために、農家のために、製造者のために、橋渡しを続けていきます。

（会長 富居）



当時の味噌  
当時の「よつ葉だより」より



## 参加してみませんか

※コロナ禍で自粛してきましたが、感染予防の対策を講じて再開します。

地産地消～守ろうふるさと のこそう緑の大地～  
やさと農業体験「かぼちゃを収穫しよう！」JA やさと有機栽培部会生産者との交流です。広々とした里山で  
かぼちゃを収穫しましょう。

日 時：7月21日(木) 10:00～11:30(受付9:30～)

※収穫時期が遅れているため、予定していた日程を変更しました。

会 場：朝日里山学校(茨城県石岡市柴内630番地)

参加費：無 料

定 員：15家族 託 児：な し

締切日：7月8日(金)



主 催：よつ葉生協

問合せ・申込：よつ葉生協 本部 中村  
TEL 0120-07-1613

※申し込み多数の場合は抽選になります。

※食事の提供はありません。

※ご案内は7月11日以降に発送します。

※P4の共通申込書でお申込みください。

## 那須塩原

## 自家製ジュースやサイダーに！

## 季節のフルーツを使ってシロップを作ろう！

フルーツの美味しい季節に、簡単にできるシロップづくりはい  
かがでしょうか？作ったものはお持ち帰り頂き、毎日混ぜて  
1週間程度で出来上がります。このシロップを使ったジュースやサイダー、スポーツドリンク  
などを作るレシピもご紹介します。

日 時：7月14日(木) 10:00～12:00(受付9:45～)

会 場：稲村公民館(栃木県那須塩原市若草町117-1)

参加費：組合員 大人600円  
一 般 大人800円

定 員：6人 託 児：あり

締切日：7月1日(金)

主 催：那須塩原委員会

問合せ：よつ葉生協 本部 中村

TEL 0120-07-1613

&lt;持ち物&gt;エプロン・三角巾・手拭きタオル



## 【オーガニック給食で有機農業を推進】

小山っ子の未来を守る会は、2020年10月に発足した市民団  
体です。

①オーガニック給食の実現

②市が保有・管理する土地での除草剤不使用を目指し、市民の皆  
さまとともに活動しています。子ども達の笑顔と未来を守るため、署名活動や市長・市職員さ  
んとの意見交換会、自主上映会、マルシェなど、様々な活動を行  
ってきました。2022年4月24日に、小山っ子の未来を守る会定期総会が行  
われました。2022年度は新たな役員が加わり、ますます活動を  
充実させていく予定です。総会の後に、「小山市の有機農業推進と学校給食」と題して小山  
市有機農業推進協議会事務局の須藤啓明氏による講演会が行なわ  
れました。小山市は国が進める「みどりの食料システム戦略」が  
目指す「有機農業」の技術確立と耕地面積の拡大に取り組み「オ  
ーガニックシティ宣言」も行いました。講演に先立ち、小山市長の浅野正富氏からもご挨拶を賜りまし  
た。浅野市長から「小山市は、約10年前から有機農業を推進の取組みが始まっています。ですので、国がみどりの食料システム  
戦略を掲げたことも後押しとなり、小山市でも有機農業推進する  
取組みが始まっています。」との力強い後押しする様な挨拶をい  
ただきました。講演の最後には、小山市農政課課長鈴木氏より「小山市は学校  
給食の有機化で有機農業を推進します！」と力強く宣言して頂きま  
した。その後の質疑応答もたくさんの方のご意見で盛り上がり、  
須藤氏と小山市長にもコメントを戴きました。さまざまな困難はありますが、小山市は、子ども達へ有機米・  
有機野菜の給食を届け、市内で有機農産物が気軽に手に入る環  
境になるよう、一步一步進んでいます。当会でも、そのお手伝い  
をしていきますので皆様のお力添えをお願いいたします。

小山っ子の未来を守る会 高橋真美

小山っ子の未来を守る会では、随時会員を募集しております。

詳しくは、Facebook、Instagram、事務局までお問い合わせくだ  
さい。

事務局連絡先：小山市塚崎1488-16 養真館空手道場

## 農林水産省の「国産有機サポーターズ」に登録しました！

【国産有機サポーターズ】は国産の有機食品の需要喚起に向け、農林水産省が事業者と連携  
するために新たに立ち上げたプラットフォームです。創設時より「地産地消・有機農業の推  
進」に、生産者の方々と連携して取り組んできた私たちよつ葉生協も、登録しました。[https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/supporters/suppoters\\_top.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/supporters/suppoters_top.html)地産地消 いのちと健康・暮らしを守る  
よつ葉生協  
生産者と消費者が連携し、環境・農・食を支え合いながら有機農業を広げていきましょう。

# 第12回定例理事会報告6月1日(水)

## 《報告・協議事項》

### (1) 自然と共生する農業づくり協議会設立総会について

塩谷町では、町の豊かな自然環境を守り、省力化につながる先進技術と環境にやさしい栽培技術を地域に広げ、持続可能な生物の多様性に富んだ自然と共生する魅力的な地域農業づくりに資することを目的として、農業関係団体(生産者)、農業指導者、流通関係者、消費者、地域経済振興関係団体等が参加する「自然と共生する農業づくり協議会」を設立しました。栃木県内で2番目の有機農業推進自治体として、よつ葉生協も参加・協力していきます。

### (2) 5月度 組合員活動会議報告

- ① 2022年度の委員会担当者が確定しました。
- ② 委員会で計画している行事を報告しました。よつ葉だよりでご案内します。
- ③ 活動に使う食材の注文、届け先について確認しました。

④ 組合員活動の行事保険について、オンラインイベントも対象になることを案内しました。

### (3) 第32回危機管理委員会より

- ① 熱中症予防とコロナ感染予防の両方となるので、適度にマスクを外すことや水分補給をこまめにするなど各部門に注意喚起を促しました。
- ② 濃厚接触者の待機期間について  
新型コロナウイルス感染症に係る濃厚接触者の自宅待機(健康観察)は、待機期間が感染者との最終接触日から7日間ですが、4日目及び5日目の抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は、5日目から解除が可能となります。

## ●4月度事業実績

組合員数	26,602名(5月20日現在 前年比100.5%)
	加入161名 脱会125名
供給高	373,617千円(前年比99.2%)
	2022年4月～累計748,591千円(前年比101.5%)

## よつ葉太陽光発電報告

○2022年4月27日から5月26日(30日間)の太陽光発電量は、18,253kWhでした。CO2削減量は5,741kg(18Lの灯油缶を242本燃焼した量)です。

## 新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金報告(6月2週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの助けあいの気持ちが広がっています (単位:円)

栃木コロナ支えあい基金 (860番)	4,700
群馬コロナウイルス対策募金 (861番)	3,700
茨城誰かのために募金 (862番)	2,600
<b>合計</b>	<b>11,000</b>

共同購入注文書の該当番号に数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。一口100円の募金になります。

## 東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告(6月2週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位:円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	5,900
震災孤児を支援する募金 (910番)	21,800
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	10,100
<b>合計</b>	<b>37,800</b>

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。一口100円の募金になります。

よつ葉生協は、栃木県生協連と栃木県との包括連携協定に基づき、県の広報に協力しています。

川のリアルタイムな情報を活用しよう!  
川に苦いたらレーダー雨量や川の水位を確認しよう

川の防災情報  
国土交通省 水管理・国土保全局  
国土交通省が観測しているレーダー雨量・河川水位等を情報提供しています

とちぎ リアルタイム雨量 河川水位観測情報  
栃木県が観測している雨量・河川水位等を情報提供しています

栃木県県土整備部河川課 TEL:028-623-2442

## 共通申込書

希望する行事名に  してください

やさと農業体験  季節のフルーツを使ってシロップを作ろう!

会員コード	氏名
住所	
連絡のつきやすい電話番号 ☎	
参加人数 (大人) 組合員	人 ※同居の家族は組合員に含みます
(大人) 組合員以外	人
(小・中学生)	人 歳 歳 歳
(未就学児)	人 歳 歳 歳
参加者のアレルギー	無・有 ( )

備考欄

## ●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/> メールアドレスが変わりました。

よつ葉だよりメールアドレス [yotsubadayori@yotsuba-coop.jp](mailto:yotsubadayori@yotsuba-coop.jp)



ホームページ



Facebook



Instagram